

学則（事業概要）

1 開講目的	地域で在宅生活を営まれる重度障害者、特に医療的ケアを必要とする方々に対して、適切なケアサービスを提供できるよう、現場に即した知識並びに技術の習得を目的とする。
2 申請者の名称, 所在地及び事業者番号	別紙「研修指定申請書」のとおり
3 実施する研修課程及び講義の形式	別紙「研修指定申請書」のとおり
4 研修の名称	別紙「研修指定申請書」のとおり
5 実施場所 (施設の名称及び所在地)	講義：(施設の名称) 土屋ケアカレッジ 広島教室 (施設の所在地) 広島県広島市東区光町1丁目8-20 プレジデント光ヶ丘202 演習：(施設の名称) 土屋ケアカレッジ 広島教室 (施設の所在地) 広島県広島市東区光町1丁目8-20 プレジデント光ヶ丘202 実習：別紙「実習施設一覧表」のとおり
6 研修実施期間	別紙「研修指定申請書」及び別紙「研修日程表」のとおり
7 研修カリキュラム	別紙「研修カリキュラム」のとおり
8 講師氏名	別紙「講師一覧表」のとおり
9 使用テキスト	テキストの名称：喀痰吸引等研修テキスト 出版社名等：全国自立生活センター協議会
10 添削指導, 面接指導の体制, 方法等 (通信形式の場合のみ)	
11 研修修了の認定方法 (通信添削課題の合格基準を含む。)	修了評価方法・合格基準：修了の認定は、第8条に定めるカリキュラムを履修し、修了評価試験において90点以上(100点を満点とする)のものに対して行う。 修了評価不合格時の取扱い：90点に満たなかったものについては必要に応じて再試験を実施する。
12 遅刻, 早退及び欠席の取扱い	理由の如何にかかわらず、研修開始から10分以上遅刻した場合は欠席とする。
13 補講の取扱い	補講の実施の有無 (有) 補講が可能な科目：全科目 補講の上限：(9) 科目以内とする。 開講日から (2) ヶ月以内に修了すること。 補講の方法：他の日程に行われる当法人の研修に参加し補講を行う 補講に要する費用：無料
14 受講の取消し	受講を取消す場合 (要件)：①学習意欲が著しく欠け、修了の見込みがないと認められる者。②研修の秩序を乱し、その他受講者としての本分に反した者。③重度訪問介護従業者として適性に欠ける者。④反社会的勢力またはその関係者と認められる者。 受講料等既に支払った費用の返金の有無：無
15 修了証明書等の交付	修了を認定した者には修了証明書及び携帯用修了証明書を交付する。
16 受講資格及び定員	受講資格：重度の肢体不自由者・常時介護を要する障害者等への介護の知識・技術を習得したい者

	広島県または広島県近郊在住、在勤で通学可能なもの 定 員： 20 名
17 受講手続	申込み方法：電話・メール・Webにて受付。運営事務局は受付後、受講者に受講決定通知をメールにて送付。 申込み先：土屋ケアカレッジ運営事務局 TEL：050-3138-2024 Mail:college@care-tsuchiya.com Web: https://tcy-carecollege.com/ 受講決定方法：申し込み受付後定員調整の上決定 (応募者多数の場合の決定方法：申込順) 受講資格の確認方法：面談もしくは電話確認
18 受講料, 演習費, 実習費等及び支払方法	30,000 円 (テキスト代, 消費税含む。) 支払方法：銀行振込もしくはクレジットカード決済にて納入。
19 科目免除の取扱い	科目免除の有無 (無) 免除が可能な科目： 免除対象者： 手続き方法：
20 受講者の個人情報取扱い	個人情報保護規程策定の有無 (有) なお、修了者は広島県に報告する修了者名簿に記載される。
21 受講中の事故等の対応	緊急時には速やかに対応できるようにする。
22 研修担当部署 (担当者) 及び連絡先 (問合せ先)	土屋ケアカレッジ運営事務局 山本 沙樹 050-3138-2024
23 その他	【遠隔化ツール】 ・パソコン・タブレット・スマホ携帯等で受講することができ、かつ安定したインターネット環境が整っていることとする。 【受講確認】 ・受講開始から終了時まで事務局にて接続状況・受講中態度等確認する。 【理解度確認】 ・講義中講師より質問等で回答してもらい確認する。 【補講】 ●当社通信状況の不備等で受講が行えなかった場合 (追加費用無し) ・受講生に説明を行い、他の日程に行われる当法人の研修に参加し補講を依頼する。 ●受講者側都合で受講できなかった場合 (追加費用有、上記 13 補講の取扱いのとおり) ・受講者が希望すれば他の日程に行われる当法人の研修に参加し補講を行う。

【留意事項】

- (1) 研修が一体的に実施される複数課程の研修について、同一の学則とすることも可能であること。この場合、各項目において、該当する全ての内容を記入すること。
- (2) 「2 事業者番号」は、広島県から事業者指定を受けた後に提出する学則について、県が定めた番号を記載すること。
- (3) 「5 実施場所」は、講義室、演習室が所在する施設の名称及び住所を記載すること。
- (4) 「5 実習施設」、「7 研修カリキュラム」、「8 講師氏名」は、それぞれ様式第 2 号の 2~4 に記載して学則に添付し、様式第 2 号の 1~4 を学則一式として受講者に配付すること。
- (5) 「9 使用テキスト」について、独自に作成したテキストを使用する場合はその旨を記載すること。
- (6) 「13 補講の取扱い」について、補講も含めて研修期間の範囲内に修了すること。
- (7) 「23 その他」は、1~22 の内容以外に必要な事項がある場合に記載すること。

研修指定申請書

令和 5 年 9 月 1 日

広島県知事 様

郵便番号 〒715-0019
主たる事務所の所在地 岡山県井原市井原町 192 番地 2
久安セントラルビル 2 階
法人・団体名 株式会社土屋
代表者の職・氏名 大山 敏之

次の研修について、「指定居宅介護等の提供に当たる者として厚生労働大臣が定めるもの」（平成 18 年 9 月 29 日厚生労働省告示第 538 号）第 1 条第 3 号から第 7 号に規定する研修として広島県知事の指定を受けたいので、次のとおり関係書類を添えて申請します。

事業者番号	70	
研修の名称	土屋ケアカレッジ重度訪問介護従業者養成研修	
研修課程	統合 課程	
定員	(広島教室) 20 名	
研修日程	令和 5 年 10 月 4 日 ~ 令和 6 年 2 月 29 日	
実施場所	講義： (施設の名称) 土屋ケアカレッジ 広島教室 (施設の所在地) 広島市東区光町一丁目 8-20 プレジデント光ヶ丘 202 演習： (施設の名称) 土屋ケアカレッジ 広島教室 (施設の所在地) 広島市東区光町一丁目 8-20 プレジデント光ヶ丘 202 実習：別紙「実習施設一覧表」のとおり	
講義の実施方法	通学（講義は遠隔化）	
使用する教材名	喀痰吸引等研修テキスト 全国自立生活センター協議会	
介護員養成研修の同時開催の有無	有	
県 HP への掲載可否	可	
事務担当者連絡先	担当者名	山本 沙樹
	住所	岡山県井原市井原町 192 番地 2 久安セントラルビル 2 階
	電話番号	080-3016-1327
	Fax 番号	050-3457-9126
	e-mail	college-chugoku@care-tsuchiya.com

研修日程表(広島教室)

課程： 重度訪問介護従業者養成研修 統合課程

研修名称： 土屋ケアカレッジ

重度訪問介護従業者養成研修 統合課程

申請者名： 大山 敏之

研修期間：

広島教室 / 標準日程表

科目名	時間数	実施年月日	時間	講師職氏名 (アシスタント)	実施場所
オリエンテーション	0.5	1 日目	9:00~9:30	佐藤 望 友利 沙耶香	ケアカレッジ 広島教室 (遠隔化)
重度の肢体不自由者の地域生活等に関する講義	2		9:30~11:30	宮本 武尊	
基礎的な介護技術に関する講義	1		11:40~12:40	宮本 武尊	
コミュニケーションの技術に関する講義	2		13:30~15:30	宮本 武尊	
喀痰吸引を必要とする重度障害者の障害と支援に関する講義・緊急時の対応及び危険防止に関する講義	1.5		15:40~17:10	齋藤 みさを 長谷川 信子	
経管栄養を必要とする重度障害者の障害と支援に関する講義・緊急時の対応及び危険防止に関する講義	1.5		17:20~18:50	齋藤 みさを 長谷川 信子	
喀痰吸引を必要とする重度障害者の障害と支援に関する講義・緊急時の対応及び危険防止に関する講義	1.5	2 日目	9:00~10:30	吉田 美貴 桑田 満喜子	ケアカレッジ 広島教室 (通学)
経管栄養を必要とする重度障害者の障害と支援に関する講義・緊急時の対応及び危険防止に関する講義	1.5		10:35~12:05	吉田 美貴 桑田 満喜子	
喀痰吸引等に関する演習	1		12:10~13:10	吉田 美貴 桑田 満喜子	
基礎的な介護と重度の肢体不自由者とのコミュニケーションの技術に関する実習	3		14:00~17:05	曾根田 拓史 大元 克也 妹尾 岬 伊塚 健太郎 石原 志保 倉上 誠	
外出時の介護技術に関する実習	2		17:10~19:10	曾根田 拓史 大元 克也	

				妹尾 岬 伊塚 健太郎 石原 志保 倉上 誠	
筆記試験	0.5		19:20~19:50	曾根田 拓史 大元 克也 妹尾 岬 伊塚 健太郎 石原 志保 倉上 誠	
重度の肢体不自由者の介護サービス提供現場での実習	3.5	3日目は実習先の都合による		曾根田 拓史 大元 克也 妹尾 岬 伊塚 健太郎 石原 志保 倉上 誠	ホームケア土屋 広島・福山（利用者居宅）

研修カリキュラム

課程： 重度訪問介護（統合）課程

研修名称： 土屋ケアカレッジ重度訪問介護従事者
養成研修 統合課程

科目名		必須 履行時間	時間数	備考	
講義 (オンライン)	1	重度の肢体不自由者の地域生活等に関する講義	2	2	
	2	基礎的な介護技術に関する講義	1	1	
	3	コミュニケーションの技術に関する講義	2	2	
	4	喀痰吸引を必要とする重度障害者の障害と支援に関する講義・緊急時の対応及び危険防止に関する講義①	3	3	
	5	経管栄養を必要とする重度障害者の障害と支援に関する講義・緊急時の対応及び危険防止に関する講義②	3	3	
計			11	11	
演習	1	喀痰吸引等に関する演習	1	1	
	計			1	1
実習	1	基礎的な介護と重度の肢体不自由者とのコミュニケーションの技術に関する実習	3	3	
	2	外出時の介護技術に関する実習	2	2	
	3	重度の肢体不自由者の介護サービス提供現場での実習	3.5	3.5	
計			8.5	8.5	
合計時間数			20.5	20.5	

※ 定められた時間数以上に実施する場合は、時間数に下線を記入すること。

定められた科目以外に実施する独自の科目がある場合は、適宜欄を設けて記入すること。

講師一覧表

課程： 重度訪問介護(統合)課程

研修名称： 土屋ケアカレッジ重度訪問介護従事者
養成研修 統合課程

申請者名： 大山 敏之

氏名	担当科目	資格・職歴等（福祉・医療関係に係るもの）	専任 兼任
吉田 政弘	講義1・2・3 実習1・2・3	社会福祉士・介護歴4年	兼任
宮本 武尊	講義1・2・3 実習1・2・3	介護福祉士・介護歴7年	兼任
曾根田 拓史	講義1・2・3 実習1・2・3	介護福祉士・介護歴10年	兼任
大元 克也	講義1・2・3 実習1・2・3	介護福祉士・介護歴2年	兼任
吉岡 理恵	講義1・2・3 実習1・2・3	介護福祉士・介護歴8年	兼任
石原 志保	講義1・2・3 実習1・2・3	介護福祉士・介護歴15年	兼任
伊塚 健太郎	講義1・2・3 実習1・2・3	介護福祉士・介護歴4年	兼任
山根 健	講義1・2・3 実習1・2・3	介護福祉士・介護歴20年	兼任
妹尾 岬	講義1・2・3 実習1・2・3	理学療法士・リハビリテーション職歴3年 実務者研修・介護歴1年	兼任
伊藤 辰也	講義1・2・3 実習1・2・3	介護福祉士・介護歴10年	兼任
角南 成禅	講義1・2・3 実習1・2・3	介護福祉士・介護歴17年	兼任
呉 善姫	講義1・2・3 実習1・2・3	介護福祉士・介護歴20年	兼任
椋木 慎也	講義4・5 演習1	看護師・看護歴5年	兼任
吉田 美貴	講義4・5 演習1	看護師・看護歴12年	兼任
森 智子	講義4・5 演習1	看護師・看護歴35年	兼任
成瀬 絵梨	講義4・5 演習1	看護師・看護歴14年	兼任
齋藤 みさを	講義4・5 演習1	看護師・看護歴17年	兼任
長谷川 信子	講義4・5 演習1	看護師・看護歴24年	兼任
香山 里美	講義4・5 演習1	看護師・看護歴38年	兼任
桑田 満喜子	講義4・5 演習1	看護師・看護歴26年	兼任
吉富 知子	講義4・5 演習1	看護師・看護歴17年	兼任

倉上 誠	講義 1・2・3 実習 1・2・3	介護福祉士・介護歴 11 年	兼任
------	----------------------	----------------	----

※担当科目は研修カリキュラムの番号を記載しております。

土屋ケアカレッジ

重度訪問介護従事者養成研修（統合課程）におけるオンライン授業

●実施する臨時的代替方法の具体的な内容に関する説明

1. 対象科目

重度の肢体不自由者の地域生活等に関する講義

基礎的な介護技術に関する講義

コミュニケーションの技術に関する講義

喀痰吸引を必要とする重度障害者の障害と支援に関する講義・緊急時の対応及び危険防止に関する講義①

経管栄養を必要とする重度障害者の障害と支援に関する講義・緊急時の対応及び危険防止に関する講義②

2. 代替手段

オンラインミーティングツール、zoom を使用した遠隔授業

3. 実施方法

対象科目について、担当講師がオンライン上で講義をライブ配信する。

受講生はあらかじめ通知された URL にて視聴する。

質問は zoom の QA 機能、チャット機能、発言可能機能により、講師が適宜受け、その場で回答することを基本とする。

全時間帯での受講生の視聴を確認するため、講師がランダムに 5 つの視聴パスワードを通知し、受講生はそのパスワードを課題用紙に記入し、通学日に提出する。

合わせて管理視聴者を配置し、受講生の視聴状況を確認する。

受講生の知識の定着を図るため、視聴内容の感想を課題用紙に記入する。

提出された課題用紙を講師が採点及び添削を行う。

●当初予定されていた実施方法に比して、教育の質が保たれていることに関する説明

講義をライブ配信することで、リアルタイムの講義内容を提供できる。

講義で使用する資料の画面共有も可能である。

質問の受付及び回答もリアルタイムで可能である。